

基準 8 施設・設備

(1) 観点ごとの分析

観点 8-1-①： 短期大学において編成された教育研究組織の運営及び教育課程の実現にふさわしい施設・設備が整備され、有効に活用されているか。また、施設・設備のバリアフリー化への配慮がなされているか。

【観点到係る状況】

本学が所管する面積は 23,334.11 m²であり、建物（体育館を除く）の延べ面積は 12,682.66 m²で、講義室は大講義室 1 室・講義室 8 室の計 9 室、研究・ゼミ・演習室は 39 室、実験実習室は食物栄養学科で 8 室、生活デザイン学科で 12 室、情報処理室 3 室、語学学習室（LL 教室）1 室、就職資料室、保健・休養室、学生相談室、ロウカールームのほか、附属図書館を併設している。附属図書館は事務室、閲覧室、AV 室、書庫からなっている。図書検索システムを備えており、9:00～19:00 に開館している。建物は平成 12 年度に移転新築されたもので、施設・設備はバリアフリー化されている。

体育館は 1,316.58 m²で、ほかにテニスコート 3 面（2,700 m²）、グラウンド（4,000 m²）、クラブ室 21 室、学生会館（1,674.71 m²）があり、体育の授業やクラブ活動に提供している。

情報処理のための学生用パソコンは計 112 台設置されており、その内の 20 台はアパレル CAD ソフトをインストールして、生活デザイン学科の実習に利用している。

【分析結果とその根拠理由】

本学の建物面積をはじめ施設はすべて短期大学設置基準を満たしており、全学科を対象とした講義室をはじめ、学科単位の資料室、教員研究室、ゼミ室などによって、全学共通教育や学科の専門教育、学科活動、少人数教育を保証している。また情報処理室、語学学習室、附属図書館などによって、語学・情報教育、学生の自主的学習をサポートしている。また食物栄養学科と生活デザイン学科には実験実習室、関連施設として分析機器室・動物飼育室・薬品庫・天秤室等研究のための部屋があり、両学科の専門教育を支えている。さらに、体育館、テニスコート、グラウンド、クラブ室、学生会館などによって、全学の体育教育や学生のクラブ活動などに供している。

また、売店・食堂施設なども併設されている。

本学の建物と敷地内はすべてバリアフリーとなっており、車椅子使用者用のトイレも設置しており、施設全体が身体障がい者に配慮した構造になっている。

観点 8-1-②： 短期大学において編成された教育課程の遂行に必要な ICT 環境が整備され、有効に活用されているか。

【観点到係る状況】

本学では、授業用に情報処理室を 2 室設置し、各室 39 台のパソコンを配備している。全学科ともに情報処理演習の科目を開講し、パソコン情報処理の基本・応用操作を教育内容に取り入れている。特に生活デザイン学科では、専門によりアパレル CAD ソフト用のパソコン 20 台も利用されている。さらに設計図用 CAD、画像処理ソフトなど専門的なソフトも利用できるようになっている。

また、情報処理自習室には36台のパソコンを配備しており、平日8:30～19:00は自由に使用でき、申請があれば使用時間の延長、休日の利用も認めている。附属図書館においては、利用者用に蔵書検索のためのパソコン2台を設置しており、図書や文献の検索を行うことができる。この蔵書検索システムは、インターネットを介して利用することも可能になっている。

学内のパソコンは講義室に置かれたものを含めて、インターネットにつながっており、学外のホームページを利用して授業を進めることが可能である。学内のネットワークは100Mbpsの通信速度をもち、本学からは1Gbpsの岐阜県情報スーパーハイウェイに接続して、さらにプロバイダーを経由してインターネットに接続されている。

学生は、インターネットを経由して、本学の学外ページを閲覧できるだけでなく、求人情報を学生専用ページにアクセスして閲覧することが可能になっている。

学生への情報伝達は掲示板を基本とするが、緊急を要する場合、個別に連絡を取るためには、学生の携帯メールアドレスが学内システムに一括登録されており、教職員はこのアドレス帳をもとに、学生へメールを送って、情報伝達している。

【分析結果とその根拠理由】

情報リテラシー教育のために、各学科ともパソコン演習を授業に取り入れ、情報処理教育を推進している。

学内のパソコンは学内LANを経由して、いずれもインターネットに接続されており、学生は授業時間外でも、情報処理自習室から学外ホームページにアクセスして、情報、資料の収集をし、レポート作成などに役立てている。就職活動においては、各企業のホームページを閲覧して、企業研究に役立てている。また、教員は学外ホームページを提示しながら、授業を進めていくことも可能になっている。

図書館の蔵書検索、本学への求人情報収集もインターネットを使って行っている。本学の情報ネットワークは、教職員、学生のニーズに十分応えられるものになっており、教職員、学生ともこれらを有効に活用していると判断できる。

観点8-1-③： 施設・設備の運用に関する方針が明確に規定され、短期大学の構成員（教職員及び学生）に周知されているか。

【観点到に係る状況】

本学は施設使用規程において、教室、附属図書館、体育館、運動場、テニスコートの利用について定めており、学生会館については学生ホール及び和室使用に関する内規がある。また、情報処理室については、情報処理室の利用及び維持管理に関する規程細則を定めている。

学内施設の利用については、入学時ガイダンス時で説明するとともに、学生便覧（別冊資料A）3-5頁に利用案内・利用手続きなどを記載して、学生に周知している。

【分析結果とその根拠理由】

学内施設の利用については、規程及び内規等を定め施設利用の方針を明確にしており、学生に対しては、入学時ガイダンスや学生便覧で周知している。

観点8-2-①： 図書館が整備され、図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的

に収集、整理されており、有効に活用されているか。

【観点に係る状況】

教育研究上必要な図書館用図書、視聴覚資料等については、各教員の希望をもとに、図書・紀要委員会で選定し、購入している。また、学科ごとに必要な業界新聞や学会誌等については、学生実習費で予算計上し購入している。蔵書の配架については、日本十進分類法に則り、系統的に整理・保管しており、学科購入雑誌等についても学生は自由に活用できる。

平成21年3月末現在、附属図書館の蔵書数は、和書68,708冊、洋書9,223冊の計77,931冊、視聴覚資料についてはビデオテープ1,348巻、CD-ROM78枚、DVD554枚となっている。所蔵図書はデータベース化され、図書検索システムで検索できるようになっている。この検索システムは図書館においた利用者用パソコン2台の他に、インターネットを経由して、自宅からでも検索できるようになっている。

過去5年間の利用状況を資料8-Aに示す。

資料8-A 過去5年間の貸出人数と貸出冊数

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
学生貸出人数(延べ)	4,897	5,309	5,563	4,432	4,885
学生貸出冊数	6,820	8,075	8,363	6,677	7,664
学生1人当り貸出冊数	13.2	15.5	15.9	12.6	14.5
教員貸出人数	249	282	336	309	317
教員貸出冊数	459	524	568	599	642
学外者貸出人数(延べ)	182	196	185	193	336
学外者貸出冊数	290	378	314	348	541
貸出人数合計(延べ)	5,328	5,787	6,084	4,934	5,538
貸出冊数合計	7,569	8,977	9,245	7,624	8,847

出典：図書館2008（本学附属図書館利用統計）

【分析結果とその根拠理由】

教育研究上必要な図書、学術雑誌、視聴覚資料等については、学生・教員の希望を聞いて、図書・紀要委員会で選書し、購入している。図書、学術雑誌、視聴覚資料等は、日本十進分類法に則り、系統的に整理・保管している。例えば、学生1人当りの年間貸出冊数は13冊～16冊（資料8-A参照）となっており、図書館はまあまあ有効に活用されていると判断できる。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

施設はバリアフリーとなっており、身体障がい者に対応した施設である。

各学科とも情報リテラシー教育のために、いくつかの授業演習科目を設けて、ビジネスソフトの習熟を図っている。また、生活デザイン学科ではアパレルCAD、設計図用CAD、画像処理ソフトなど専門的なソフトを導

入して、デザイン教育に利用している。

学生収容定員 460 人に対して、情報処理自習室には 36 台のパソコンを設置し、いつでも利用できるようにしている他、授業後には、情報処理教室のパソコン 76 台を解放して、学生の自習、レポート作成、インターネットを使った情報収集などに供している。

図書の購入についても、学生や教員の希望を取り入れて、図書・紀要委員会において選定し、購入をしている。蔵書検索システムはインターネットを介して、図書館外においても利用できるようになっている。

【改善を要する点】

附属図書館について、市民開放をしているが、利用者数は資料 8-A に示すとおり、大いに活用されているとは言いがたい。さらに、一般市民が利用しやすい環境を整え、市民に開かれた短大となるよう努力していく必要がある。

(3) 基準 8 の自己評価の概要

本学は、情報処理室や附属図書館の整備状況及びそれらの有効活用を含め、教育研究組織の運営及び教育課程の実現にふさわしい施設・設備が整備されていると考える。

また、現在の校舎は平成 12 年度に移転新築したため、校舎及び敷地内はすべてバリアフリーとなっており、身体障がい者用トイレも設置し、学校全体が身体障がい者に配慮したものとなっている。

各学科とも情報リテラシー教育のために、パソコン演習を授業に取り入れ、情報処理教育を推進している。

学内のパソコンは学内 LAN を経由して、インターネットに接続されており、学生は情報、資料の収集、レポート作成などに役立てている。また、教員は学外ホームページを提示しながら、授業を進めていくことも可能になっている。このように学生、教職員とも、情報ネットワークを十分有効に活用していると判断できる。

学内施設の利用については、規程及び内規等を定め、入学時ガイダンスや学生便覧で学生に周知している。

教育研究上必要な図書、学術雑誌、視聴覚資料等については、学生・教員の希望を聞いて、図書・紀要委員会において選書し、購入している。蔵書は、日本十進分類法に則り、系統的に整理・保管されている。利用統計資料によれば、これらは学生に有効に活用されていると判断できる。